

**漢字にはいくつもの読み方がある。これをいっぺんに教えるのが  
よいか、どうか。**

今までの教育では、いくつもの音訓をいっぺんに教えていました。  
しかし、石井方式ではこれを否定しています。

「漢字にはいくつ心の読み方がある」と一般に言われていますが、  
それは結果からみた言い方で、ほんとは、「いくつもの言葉を一つで  
間に合わせている」のです。

それはさておき、石井方式では、まず体験を重んじます、牛という  
漢字を“うし”と教えても、牛そのものを知らなくては何にもならない、と  
考えるからです。

だから、生きた牛を見せることが教育の第一。それができない場合  
は、絵本や写真により間接体験をさせます。第二は、その牛を「これ  
が“うし”だよ」と言って、言葉で表現する。続いて、「これが“うし”とい  
う字」と言って、視覚言語である漢字と聴覚言語とを实在の牛と結び  
つけて教えます。

实在である牛と、“うし”という言葉と、“牛”という漢字と、この三者を

結びつけて覚えると、覚えやすく忘れにくい。三者を同時に教えるの  
が石井方式の特徴です。

だから、「ギユウとも読める」と言うてはならないのです。それは、  
“牛乳”という物を通して理解させます。つまり、飲み物としての牛乳を  
与え、「これが“ギユウニユウ”よ」と教え、続いて“牛乳”という漢字を与  
えます。この時「上がギユウ、下がニユウ」と教えたり、「上の字は前に  
習った“うし”でしょ」と言ったりしてはいけません。子どもがそれを発  
見するまで待つことが大切です。子どもの発見を待つほめてやり、  
それから、ギユウは牛の別の言い方であり、ギユウ肉とは牛の肉であり、  
ギユウ乳とは牛の乳であることを教えます。そうすれば子どもは関心  
をもってその知識を受け入れ、理解します。今までのような知識の詰  
め込みでは、子どもは受け入れませんし、知識を消化することが出来  
ません。